

4. 教育学研究科

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 12)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 13)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 平成 30 年度より、従来の 2 専攻（教育科学専攻、臨床教育学専攻）11 講座から「教育学環専攻」1 専攻 5 講座へ改組に伴い、「研究者養成コース（修士課程・博士後期課程）」・「専修コース（教育科学専攻・修士課程）」・「第 2 種（臨床教育学専攻・修士課程）」及び「臨床実践指導者養成コース（博士後期課程）」の見直しを行った。学修プログラムの目的別に「研究者養成プログラム（修士課程・博士後期課程）」・「教育実践指導者養成プログラム（修士課程）」及び「臨床実践指導者養成プログラム（博士後期課程）」を設置して、プログラム直下に専門性と出口（養成する人材）を明示した 9 コースを設置し、自発性や国際的素養を身につけることを目的としたコース共通科目及びそれぞれのコースにおいて体系づけられた専門科目とした教育課程を構築した。コース共通科目では、教育学環専攻修士課程の大学院生全員を対象とした基盤科目（「教育科学基盤演習」、「学際総合教育科学」等）、グローバル教育科目（「国際合同授業」、「国際インターンシップ」等）を新たに設計した。基盤科目の目的は教育学の各領域、ほかの学問領域、科学コミュニケーション、社会との連携を視野に入れた、①アカデミックライティング、基盤となる研究手法などのスキル、②教育科学研究の基盤となる知識、思考力、コミュニケーション能力を身に付けることである。これらの能力の修得により、学際的で広い視野での教育・研究を進めることの出来る体制を実現した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔優れた点〕

- 平成 30 年度日本学術振興会育志賞（博士後期課程学生 1 名）、日本心理臨床学会奨励賞（博士後期課程学生 1 名）を受賞した。